

第4回「都市づくりのランドデザインの改定に向けた検討会」

議事要旨

1. 日時 令和7年10月17日(金) 10:00~12:00
2. 場所 東京都庁第二本庁舎10階 一般会議室201、202 (WEB 併用)
3. ゲストスピーカー
 - 東京大学大学院工学系研究科 都市工学専攻都市デザイン研究室 講師 吉江 俊 氏
「大都市圏のビジョンから身近な生活圏までを結ぶ〈価値〉のデザインへ」
 - 東京大学大学院新領域創成科学研究科 環境学研究系 自然環境学専攻 准教授 寺田 徹 氏
「東京の自然環境とみどり」
4. 議事
 - ※議事次第の通り
5. 主な意見
 - ・まちづくりにおいては短期的な利益の追求ではなく、ハード・ソフトともに地域を育て、価値を持続させていく視点が重要。地域のコアとなる生活価値（投資価値ではない価値）は、住民とともに見だし、支えていくことが望ましい。公共性・社会性と利益を両立する民間開発が進みつつあり、行政側での評価やサポートの在り方の議論も今後の焦点。
 - ・東京は、多様な自然環境や江戸から積み重ねられた都市形成の上に、モザイク状の個性のように様々な生活圏が現れるため、都心、台地、丘陵などの各地域毎にみどりや生活圏を考えることが重要。東京の文化や特性を映す、路地や庭先などの身近なみどり・小さなみどりにも着目すべき。
 - ・高齢者の増加、DX・AI・ロボット技術による労働時間の減少下では、生活空間に長く滞在する人が増加していく。身近な生活圏と、積極的に投資を受け入れ日本経済を牽引する空間の役割分担が重要。
 - ・ランドデザインの4つの地域区分については、様々なレイヤーを通して地域の特徴を丁寧に捉え、メリハリをつけながら各地域区分の目指すべき姿を考えていくことが重要。また、広範な鉄道圏域やバス圏域を身近な生活圏で活かしていくことが重要。